

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ会議等で利用者様の対応法について話し合う際、事業所理念を基に話し合っている。	理念についてはホーム内の目にふれ易い所に掲示し、来訪者にも解るようにしている。月1回のスタッフ会議で利用者一人ひとりのケアのあり方について何を望んでいるかを話し合い、理念に沿った支援に立ち戻るよう心掛けている。また、家族と連携を取りきめ細かな話をし意向に沿えるよう取り組んでいる。職員は理念の持つ意味を良く理解し利用者により寄り添った支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校行事への参加や地区の秋祭りでお神酒を頂いたり、神楽見物も楽しみになっている。今年は自粛の為、改めて交流の必要性に気付くことができた。	区費を納めホームとして地域の一員としての活動をしている。開設以来地域に根差した交流に力を入れ参加出来る行事については参加してきたが、春先より「新型コロナウイルス」の影響を受けすべての活動が自粛に追い込まれ地域との交流ができない状況が続いている。新型コロナウイルス収束後には地域行事への参加をはじめ学校行事への参加、また、各種ボランティアの受け入れ等を積極的に行う予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、4学年の児童と交流を年4回程行いながら、認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	構成員として毎回、区長さん、民生委員さん、市職員、ご家族様を交えホームの様子やテーマの内容について意見交換を行い、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回、偶数月の第3金曜日に利用者、利用者家族、区長、民生委員、市高齢者支援課職員、ホーム関係者の出席で開催している。利用者状況や活動内容、職員研修、待機状況等の報告を行い、運営の向上に役立てている。また、参加者に楽しんで積極的に参加していただけるよう、会議毎に「地域の方と避難訓練の実施」「クリスマス会への参加」等、毎回テーマを決め内容のある会議としている。現在は新型コロナウイルスの影響で会議が行えない状況が続いており、区長、民生委員、市高齢者支援課には書面にて状況報告をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナウイルスの感染予防や対策について心配な事や不安な事、物品の不足についても相談している。また、運営推進会議が行えない期間は、文書にて報告している。	市高齢者支援課とは様々な事柄について相談している。特に現在は「新型コロナウイルス」の感染予防対策、使い捨て手袋の不足等について相談し助言を頂いている。利用者が楽しみにしている市の介護相談員の来訪も自粛が続いており、コロナ収束が待たれる状況である。介護認定更新調査は家族に連絡の上、市の調査員がホームに来訪し行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	認知症状の進行により理解が得られず生命の危険性が高いと判断した場合には、ご家族と本人に説明を行い実施している。なるべく苦痛がないよう心がけている。	ホーム横の市道が坂道であり、降りると国道に面しているため、玄関は安全確保のため施錠されている。利用者一人ひとりの安全確保について話し合い、身体レベル(夜間落下して骨折した方がいる)に合わせ家族と相談しベットの落下防止のため柵を使用されている利用者もいる。また、車いすからの落下防止のため食事の時、落下防止ベルト使用の方がいる。年1回、虐待防止及び身体拘束についての研修会を行い、安全確保の意識を高め支援に取り組んでいる。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修等にて学んでいる。早期気付きを心掛けあざや傷の原因についても予防策を話し合っている。また、職員の意見や悩みについても聞くようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度について学ぶ機会はある、自立支援についても個々の対応について話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、心配な事や気になる事にも確認し、納得されている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や行事の際にアンケートを実施し意見等を伺っている。	利用者一人ひとりにいくつか問い掛けを行う中で表情を見たりして要望を受け止めるよう心掛けている。家族の来訪は「新型コロナウイルス」の影響でソーシャルディスタンスを守り、玄関で10分位の面会となっている。家族会も開けない状況下であるが、年4回、「こだま便り」を発行し、ホームの様子と担当職員からの一言を添え家族にお知らせしている。誕生日会は昼食に好きな食事を用意し、代表者のエレクトーンの演奏に合わせパースデイソングを歌いお祝している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回スタッフ会議を行い、運営について意見交換が行える機会を設けている。	月1回スタッフ会議を行い、スケジュール、活動予定、研修内容検討、研修報告、利用者対応等を話し合い支援の向上に繋げている。「処遇改善加算」「特定処遇改善加算」を取得し職員の処遇改善に努めている。職員は1月に年間個人目標を発表し、12月には目標に対する振り返りを発表し、管理者がコメントを行い意識の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の都合に合わせて勤務表等を作成している。また、能力に合わせて賃金にも反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ会議等で利用者様の対応法を確認している。また、必要に応じ研修会を通じ、困っている利用者様の解決法を学び合っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナウイルスの感染により交流の機会は減っている。コロナウイルスの感染症について勉強会をしたり、外部の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活に慣れるまでは本人の希望を確認しながら、本人のペースで対応している。担当職員にも積極的に関わって頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望に耳を傾け、できる限り相談に乗っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	集団生活の環境に適しているかお試し期間もある。必要とする支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の場で役割を持ち、お互いに助け合うような支援へと繋げている。できることに働きかけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族の参加をお願いし、一緒に楽しむような機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の面会やドライブ等を行うようにしている。また、以前からかかれていた医療機関への継続支援も行っている。	近所の方や親戚の来訪が定期的にある利用者がおり楽しみにしているが、現状は新型コロナウイルスの影響で自粛状態が続いているため「電話」や「ハガキ」での交流をされている利用者もいる。年賀状は職員が作成し、書ける利用者は一言コメントを添え発送している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士と一緒に過ごせる時間を大切にしている。食事や軽体操は一緒に行い、心配したり会話も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方でもご家族様の意見を伺ったり精神面のフォローも行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴や好きな事を把握し、本人が明るく楽しく元氣よく生活できるよう支援している。	意思表示ができ、自立している方が半数弱おり、状態がおだやかでやろうという意欲がみられる時は「野菜の下処理」「食食用エプロンをたたむ」等のお手伝いに加わっていただき楽しみながら行っている。また、風呂場、脱衣場等でリラックスしている時に職員が1対1で話を伺い、思いや意向を受け止めるよう取り組んでいる。家族からお聞きした本人の特徴や生活歴、日々の状況については個人の記録として纏め、職員は出勤時に確認しきめ細かい支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様からの情報や本人が安心できる環境となるよう、援助している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのケアは日々変化している為、月1回、スタッフ会議等にて対応法を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人に説明しながら意見を聞いて、将来像を持ったケアプランとなるよう作成している。	職員は2名の利用者を担当し、衣類の整理、季節の衣替え、家族との連絡、薬の内容把握、利用者の日々の様子の把握等を担当している。モニタリングは管理者が担当職員の意見を参考に行い、更に、必要に応じスタッフ会議の中でカンファレンスを行い、家族の希望も加味した上でプランの作成を行っている。基本的には6ヶ月に1回見直しを行い状況に変化が見られた時には随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間の記録色を分け、見やすいよう区別している。また、記録を通して共有できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	従来のサービス提供にこだわることなく、柔軟に対応している。また、医療的なニーズの高い方に対しては知識を高め、医療関係者と連携しながら本人やご家族の援助を行っている。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外出自粛の為、外出やボランティアさん等外部の人と交流ができない。2019年は学校との交流、運動会や文化祭に招待された。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調の変化に応じ、速やかに主治医と連携をとり利用者様の健康管理はしっかりできている。また、主治医も協力的で往診などしてくれ、相談にのってくれる。	全利用者が入所前からのかかりつけ医を利用している。1ヶ月～3ヶ月に1回、管理者中心に職員が受診に付き添っている。薬については月1回職員が受け取りに行っている。また、契約の訪問看護師の来訪が週1回あり、利用者の健康管理に当たっている。歯科については必要に応じ協力歯科への受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なケアは、ホーム内の医療職、訪問看護師と連携を計り利用者様の安心に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに情報提供を行い、退院後のフォローもできている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	2019年は3人の利用者様が旅立った。ほとんどの家族はホームでのお看取りを希望されており、ご家族の意向を受け入れ、主治医と連携をし、ご要望に添えるようにしたい。	重度化、終末期に対するホームとしての指針があり利用契約時に説明している。そのような中、家族の希望に合わせ意思表示の出来る利用者については意向を聞き、希望に沿えるよう努めている。終末期に到った時には改めて意向を確認の上同意書を頂き、医師と連携を取りながら経過報告を行い、医療行為を必要としない場合看取り支援に取り組んでいる。昨年は3名の方の看取り支援を行い家族より感謝の言葉を頂いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	同一敷地内に医療職が住んでいる為、内線ですぐに対応できるようにしている。また、適時に応急手当の研修もしている。事故が起きないように取り組みをしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症と身体レベルにより避難はできない。水害の心配はないが地震や台風の災害には不安がある。地域の区長さん民生委員さんにも協力を呼び掛けている。	年2回春と秋に防災訓練を行っている。そのうち1回は消防署員、区長参加の下、運営推進会議に合わせて行い利用者の様子を見ていただき避難訓練をしている。また、防災研修会の実施、水消火器を使つての消火訓練、消防署への通報訓練などを行い、防災への意識を高めている。合わせて夜間想定訓練では職員1人でどこまで出来るかの確認を行っている。更に、市より福祉避難所の指定を受け、非常時には2名の受け入れが可能となっている。備蓄として「水」「インスタント食品」等が準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	思いや願望を確認し、介助時には声掛けを心掛けている。また、個室対応でありプライバシー確保ができています。	24時間365日一緒に生活しているのでも交えながら親しみを込め接している。そのような中、夜勤職員は全員男性なので入室の際には特に気配りするよう心掛けている。呼び掛けは利用者がご夫婦の場合もあることからそうした利用者は名前で、他の利用者は苗字に「さん」付けて敬意を込めお呼びしている。年1回接遇の研修会を行い、プライバシー保護や利用者の尊厳の保持について意識を高めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアプランの作成時には、解決すべき課題を明確に伝え、本人の思いを確認しながら計画できている。また、レクリエーションではいくつかの選択肢を行えるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて対応している。生活リズムが乱れない程度に要望に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪はもちろん、散髪もホームで行い、いつもきれいにされており、利用者様もヘアスタイルを喜ばれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内の畑から採れた野菜を使って、色鮮やかに盛り付けを心掛け「美味しそう」と思わず声が出るように工夫している。また、洗い物を手伝ってくれる利用者様もいる。ラズベリーやハuckleベリーも自家製のジャムで提供している。	ほとんどの利用者は自力で食事が摂取でき毎回の食事を楽しみにしている。食事作りのお手伝いに積極的に参加される利用者もおり、匂いも含め調理している雰囲気を楽しむ作り立ての料理を職員と共に頂き楽しんでいる。献立は1年分の基本献立があり季節に合わせた食材を使い調理している。また、野菜についてはホームの畑で栽培した無農薬栽培の安全な野菜を使うようにしている。更に、正月等の行事には季節感が味わえる料理を提供し、クリスマスには地元名店の「カツ重」を職員の分も合わせ取り寄せ味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食10品目の食材を使用するよう心掛けている。水分確保には夏場は配膳前に飲んでいただくようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔内にある残渣物を確認し、口腔内の状態や咀嚼状態にも関節している。義歯洗浄もしっかり行っている。歯科通院も支援している。		

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を行い、一人ひとりの排泄パターンを把握している。立ち上がり訓練等も行い、トイレにて排泄できるよう支援している。	全介助の方が若干名いるが、トイレでの排泄にこだわった支援に取り組んでいる。排泄記録を用い利用者一人ひとりのペースを掴みトイレ誘導に繋げている。合わせて起床時、食事前、就寝前には定時の声かけ誘導を行うようになっている。排便促進を図るため1日の水分摂取1,000mlとお風呂の日には牛乳かヨーグルトの摂取を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	850～1000ml/日の水分を摂取している。野菜の多いメニューとしている。また、踏み台昇降への支援も行い、便秘改善に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月、木曜日、午前中に入浴している。時間や曜日を定めることで、本人の生活リズムが安定する。夏の間は(土曜日)一日入浴回数を増やしている。	全利用者が介助が必要な状況であるが、入浴拒否の方もなく、リフト浴も備え付けられた広い浴室で週2回入浴を楽しんでいる。2名で一緒に入浴され楽しんでいる方もいる。また、車いす使用の利用者はリフト浴を使い入浴している。季節に合わせて「バラ湯」等のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の室温管理や寝具類の洗濯をこまめに行い、快適な環境に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認や管理は職員が行っている。薬の作用を理解し、副作用が出現した際はすぐに対処している。服薬セットもダブル確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝清掃を一緒に行い、自室は責任持って拭き掃除をして満足されたり、畑で採れた野菜の下ごしらえを手を伸ばし黙々と行って下さる。敷地内の散歩にも出かけ気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり屋外に出かけたいと希望される方がいないが、お花見に出かけたりしている。今年には密にならないよう外出自粛に努めている。	外出時、車いす使用の方が半数強、手引き歩行の方が半数弱という状況である。春のお花見から学校行事への参加、秋のドライブまで多くの外出が計画されているが、春先からの「新型コロナウイルス」の影響で自粛状態が続いている。そのような中、外出来ない分を補うため、代表者のエレクトーン演奏に合わせ「リズム体操」や「口腔体操」で体を動かし、「信濃の国」「青い山脈」「ふるさと」等のカラオケを楽しんでいる。	

グループホームこだま

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している利用者様は一人いる。定期的に残高を家族や職員が把握し、紛失しないよう支援している。入所前からタクシーを利用されていた為、通院はタクシーを利用し支払いもしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状にコメントを記入されたり、電話の支援も行っている。家族と会話するだけで解決することも多い。親しい人からの手紙も定期的に届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有場所はセンサーが反応し点灯するようになっている。室内色も落ち着いた淡い暖色系にまとめている。また、テラスにはプランターの寄せ植えを置き室内から観賞することができる。	利用者が寛ぎの場として一日の大半を過ごすリビングは家庭的で温かさが感じられると共にエレクトーンの音楽の響きが和やかさを増してくれる。天気が良ければホールの窓から北信五岳の山々を見ることができ、開放感も感じられる。2階のホールには応接セットが置かれ、寛ぎの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一階ダイニングホールにはソファを分散させあちらこちらに、くつろげるスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や観葉植物を置かれたり、写真や趣味を飾ったりされている。	広々とした居室は毎日の掃除で整理整頓が行き届き清潔感が漂っている。押入れとハンガーが備え付けられ暮らしやすい造りとなっている。持ち込みは自由でソファ、いす、テーブル、テレビ、観葉植物等が置かれ、家族の写真等も飾られ、思い思いの生活を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室からトイレまで手摺を活用しながら行けるようになっている。また、階移動はEVがある為、容易にできる。また、浴室にも手摺があり安全に入浴が行える。		